TORIDE ART PROJECT

TORIDE ART PROJECT PAPER "POST SUBURBIA" 4TH ISSUE

取手アートプロジェクト（TAP）は、1999年より市民と取手市、東京芸術大学の三者が共同でおこなっているアートプロジェクトです。若いアーティストたちの創作発表活動を支援し、市民のみなさんに広く芸術とふれあう機会を提供することで、取手が文化都市として発展していくことを目指して活動を続けています。

Summer-Autumn 2018

4

Ashita-no-Kougai

あしたの郊外

［取手アートプロジェクトの広報紙］

── 郊外のまち茨城県取手市で、19年続くアートプロジェクト

第四号

TAKE FREE

あ！

私たちのマンガはじまるよ！

リカちゃんハウスちゃん

祝 連載7年目

《アートのある団地》

全巻一挙ダイジェスト

── 保存版 ──

［座談会］宮田篤＋笹萌恵×長津結一郎

往来で生まれる物語

── ゆだねて転がるアートプロジェクト

［取手のひと］許中一さん

［取手のしごと］やさいNO古谷彌治さん

《半農半芸》新プロジェクト拠点

「藝大食堂」始動！

特別読切描き下ろしマンガ収録

2011年秋のある日、茨城県・取手井野団地の掲示板で、あるマンガの連載がはじまった。主人公は〝リカちゃん〟という女の子とその保護者兼住居の〝ハウスちゃん〟。このふたりが主人公であること以外に何も決まっていなかったマンガは、団地に住んでいる人々や子どもたちの、なにげない日々のできごとやことばを取り込みながら続いている。ある小学校の学区の中で息をしはじめた、リカちゃんとハウスちゃんの7年間を紹介します。

パートナーアーティスト

宮田篤＋笹萌恵

協力＝取手市立取手東小学校／旧取手市立井野小学校

https://toride-ap.gr.jp

"RIKA-CHAN HOUSE-CHAN" 2012

1 いちねんせい

Manga 宮田篤＋笹萌恵　Text 南員未来　Photo 佐々木創、田邊佳奈

RIKA-CHAN

わたしリカです。ハウスちゃんとひっこしてきました。団地のひろばにすんでいます。

リカちゃんハウスちゃん〈井野団地〉①

リカです
ハウスです
はじめまして
井野団地に引っ越してきました
広くて大きいわ
きました

<回ものこと、おしえてください>ひっこしてきたばかりのリカちゃんとハウスちゃんに、井野団地のことをおしえてください。<いつもんぼしゅう>このふたりにきたいこともぜひ、おしえてください。どきどきも「いこいーのｋ＋Tappino」まで。3-19-104

団地に来たばかりの二人は芝生の広場に住みはじめる（1巻5ページ／2011年10月頃）

リカちゃんハウスちゃん〈井野団地〉②

リカです
ハウスです
きょうはここでねよう
ハウスです
4がいくだね
あら井野団地はペット禁止よー
？
ペットじゃないよ
ガ
リカだよー！

「いぬだんちはペットきんしなのよ」と、あるぜめる子におしえてもらったので、このおはなしをかんがえました。
リカちゃんハウスちゃんに、だんちのひみつをおしえて下さい。「いこいーのｋ＋Tappino」まで。

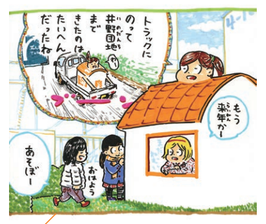
リカちゃんハウスちゃんが、団地の住民にペットと間違えられる（1巻6ページ／2011年11月頃）

カちゃんとハウスちゃんは、秋のにのって、茨城県の取手市にある井野団地にやってきました。ちょっとおとぼけのリカちゃんは、しっかりもののハウスちゃんの中に住んでいます。

井野団地の中にある芝生の広場で暮らしはじめたふたり。ひっこしてきた時はなにも知らなかったけれど、団地で出会う人たちとお話をしながら、少しずついろんなことがわかるようになってきました。リカちゃんは、団地に住んでいるおばあさんに、ハウスちゃんのペットとまちがえられたりしました（団地では、ペットは飼えないみたいです）。ハウスちゃんは、おうちだけどあたまや手足がついているので、おしゃべりしたり、だれかをてつだってあげたり、リカちゃんといっしょにいろんな場所に歩いていくことができます。はじめは「ふしぎなふたりだなあ……」と思っていた団地の人たちも、少しずつ、リカちゃんたちとなかよくなりました。

「ハウスちゃんの中ってどうなってるの？」「ふたりは親子？」「どこから来たの？」みんなはいろんなことを質問します。ある日、「リカちゃんっていくつ？　小学校にはいかないの？」と聞かれたハウスちゃん。さっそく、団地の中にある井野小学校に相談にいくと、メガネをかけたやさしい校長先生が、リカちゃんの入学をみとめてくれました。

「やった！　1年生になれるよ！」リカちゃんはとってもうれしそうです。でも、ハウスちゃんは大きすぎて、体育館での入学式に入れなかったので、あとからハウスちゃんの中で、リカちゃんだけの入学式をやり直しました。こうしてリカちゃんは、みんなよりも少しだけおくれて、小学校に入学したのでした。



ふたりは、軽トラックの荷台に乗って引っ越してきた

「リカちゃんもそろそろ、しょうがくせいなんじゃない？」と、このまえ「いこいーの（いのだんち3がいく）」であった女の子におしえてもらいましたので、ことしから井野小学校の1年生になってもらいました。ハウスちゃんはおおきいので、たいいくかんには、はいれなかったみたいです。

特別にハウスちゃんの中でやり直した入学式（1巻11ページ／2012年5月頃）

団地の掲示板に"仕掛けられた"マンガ

団地の掲示板に貼られたマンガ

宮田篤＋笹萌恵は、2011年10月から、取手井野団地に定期的に足を運び、そこで出会う人たちとの会話から拾い上げた小さな事々をタネにストーリーが構成されるマンガ「リカちゃんハウスちゃん」を連載してきた。

連載がはじまった当初、フェルトペンで描かれた1話完結のマンガは、井野団地内の掲示板に貼り出され、定期的に更新された。巨大な団地の中にどこからともなく現れた、頭と手足のある小さな家「ハウスちゃん」と、その中に住む女の子「リカちゃん」。ここではじまったふたりの生活は、掲示板を通じてマンガと出会う人たちの、現実と想像の境目をゆるがすスイッチとして、団地の中にそっと仕掛けられていた。

COMMENTARY

"RIKA-CHAN HOUSE-CHAN" 2013

2 にねんせい

RIKA-CHAN

しってた？リカはしらなかった。団地には〝がいく〟があるんだって。ハウスちゃんにもあったかも……。

あっというまに1年が過ぎていきました。背がぐんとのびて、かみの毛もさっぱりみじかくなって、少しおねえさんになったリカちゃんは、井野小学校の2年生になりました。

ある日、上級生のお友だちが、リカちゃんに団地の「街区（がいく）」のことを教えてくれました。井野団地は、ぜんぶで5つに分かれていて、それぞれを「街区」とよぶんですって。団地の中にあるたてものをよく見てみると「3－12」「5－3」のように数字が書いてあって、これが「どの街区の、いくつめのたてものか」を表しているのだそうです。この数字をおぼえておけば、広くて、そっくりなたてものがいっぱいならんだ井野団地でも、まいごにならないですね。

「あっ！」そのとき、リカちゃんはひらめきました。「ハウスちゃんにも数字があったかもしれない……！」ハウスちゃんだって団地の中にいるおうちです。たてものですから、かべには数字が書かれているはずです。そこで、ハウスちゃんによじのぼって、すみずみまで点検してみました（でも、もちろんハウスちゃんのかべに「街区」の数字は書かれていませんでした）。

さて、2年生も終わりに近づいたころのことです。いつも井野小学校の昇降口の屋根からみんなを見守っている学校のシンボル「いのじい」が「井野小は〝ひっこし〟をするんじゃよ」と教えてくれました。「えええええーっ!!」リカちゃんとハウスちゃんは、とてもびっくりしてしまいました。ひっこしだなんて、いったいどこへいくのでしょう。

上級生に「街区」のことを教えてもらった（2巻6〜7ページ／2013年6月頃）

現実とフィクションの段差をなくす

団地の掲示板とは異なって、図書室では、A4のフォトアルバムに1話ずつお話が貼られていくという連載方法をとった。学年の最初に、表紙だけが作られたフォトアルバムを1冊用意する。宮田と笹が図書室に行く度に、お話は少しずつ増えていき、ひとつの学年が終わると1冊のフォトアルバム＝マンガ1巻が完成した。描画方法も、よりマンガらしいモノクロの線画などになっていった。また、1年生の終わり頃から、背景に写真を敷く方法が使われるようになり、のちに多用されるようになった。実際の学校内を撮影した写真をマンガの背景にすることで、マンガの世界のリカちゃん・ハウスちゃんと、現実の学校生活との間にあるイメージの垣根を低くすることを狙った。

おたよりを書いている様子

2巻表紙は昇降口の写真が背景

おたよりシステムの確立

活動2年目。リカちゃんは、マンガの中で2年生に進級することになった。これによりマンガに「時間」が流れはじめる。宮田と笹の図書室通いも定着してきた。またこの頃から、直接誰かに話を聞く「取材」以外の方法でマンガの元になるエピソードを集める「おたより」システムが機能するようになった。図書室の一角に「おたよりポスト」と「おたより用紙」を設置し、子どもたちがいつでも自由に書いて投函できるようにした。「いのじい」も、おたよりのアイディアから生まれたキャラクター。

出会う人によって転がっていく物語

「リカちゃんとハウスちゃんは軽トラックで団地にやってきた」という設定を思いついたのは、井野団地に住む「黒騎士さん」。珍しいカードゲームをたくさん持っていて、放課後、団地の広場で小学生を遊ばせてくれるお兄さんだ。

宮田と笹が井野団地の人たちと話している時に出たアイディアによって、主人公のリカちゃんは小学校に通うことになった。同時に宮田と笹も、月に1回くらい学校に通い、昼休みの図書室で子どもたちと過ごすようになった。お話は、学校での出来事や、図書室で子どもたちと話したことからでき上がることが多くなり、連載場所も小学校の図書室がメインになった。マンガは、司書の先生が設えてくれた専用コーナーで、いつでも読めるようになっていた。

井野小学校図書室のマンガ専用コーナー

"RIKA-CHAN HOUSE-CHAN" 2014

3 さんねんせい

HOUSE-CHAN

ハウスちゃんです。井野小が〝ひっこし〟するんだって。リカちゃんはどうするんだろう？

リカちゃんは、3年生になりました。2年生の時にとってもみじかくしたかみの毛は、むすべるくらいにまでのびました。でもまだ、自分でむすぶのはなかなかたいへん。学校のお友だちに「水でぬらしてからブラシでまとめるとやりやすいよ」とか「最後にスプレーをするとほつれにくいよ」とかアドバイスをもらいながら、毎朝練習しました。

夏になると、プールの授業もはじまります。セミがじりじり鳴く暑い朝、「今日はプールだ！」とうれしそうに出かけていくリカちゃん。そんなリカちゃんを見てハウスちゃん「いいなあ、わたしもプールに入りたい！」。でも、そのままプールに入ると、家の中に水が入ってびしょびしょになってしまいます。さて、どうしよう……。すると、となりで聞いていた教務主任のいいずみ先生がドアや窓のすきまにガムテープをはって、ばっちり防水してくれました。おかげでハウスちゃんは「ザバーン！」といきおいよく、学校のプールに飛び込むことができました。

去年「いのじい」が言っていた「ひっこし」も、近づいてきました。ひっこし先は、井野小と近くの2つの小学校が合わさって新しくできる「取手東小学校」です。取手市に住んでいる子どもたちが少なくなってきたので、3つの学校がいっしょになることになったそうです。「ひっこし」までの1年は、みんなでちくちく、カラフルな校歌のはたをつくる「ちくちく校歌」をしながら、井野小とお別れするための時間を過ごしました。3年生も終わりに近づいたある日、ハウスちゃんはふと思いました。「そういえば、リカちゃんはみんなといっしょに取手東小に〝ひっこし〟できるのかな？」校長のしまだ先生に聞いてみると「どうかな。取手東小の校長先生に、相談してみるといいよ。」と教えてくれました。

リカちゃんは毎朝、ポニーテールに大苦戦

先生にテープで防水してもらってプールに入るハウスちゃん（3巻6〜7ページ／2014年7月頃）

RIKA-CHAN

わすれもののスピーカーってとってもべんりだな！リカは毎日つかってるよ！

「わすれものスピーカー」のおかげで水着を忘れずに済んだ（4巻9ページ／2015年7月頃）

割り算の筆算の記号がハウスちゃんの屋根に見えてくる（4巻10ページ／2015年9月頃）

"RIKA-CHAN HOUSE-CHAN" 2015

4 よねんせい

新しい春が来て、取手東小学校が開校しました。リカちゃんもみんなといっしょに取手東小に通えるようにおねがいしに行くと……。「ひさしぶりだね、リカちゃん。」なんと、井野小の校長先生だったしまだ先生が、今度は取手東小の校長先生として、リカちゃんを迎えてくれたのでした。「よくきたね。これからも学校に通っていいですよ。」こうしてリカちゃんは無事、取手東小の4年生になりました。

ほかの学校の子もいるなあ……。はじめはとても心配だったリカちゃんですが、すぐに新しいお友だちもできました。井野小の時はひとつだけだったクラスの数も、3つにふえました。これからは毎年、クラスがえもあるんだね。

4年生になると、勉強も少しむずかしくなります。とくに、算数で「わり算のひっさん」を習ったときはたいへんでした。むずかしくって、なかなかこたえが分かりません。ずっと問題とにらめっこしていると、ひっさんの記号が、なぜかハウスちゃんの屋根みたいに見えてきてしまうのです。でも、算数のいまい先生がやさしく教えてくれるので、なんとかできるようになりました。

取手東小の4年生のアイディアで、ハウスちゃんに「新しい装備（そうび）」がたくさんつきました。なかでも、わすれものをした時に大きな声で知らせてくれる「わすれものスピーカー」は、うっかりやさんでよくわすれものをしてしまうリカちゃんには、おおだすかりです。

学校から帰ってきたときの勢いがすごい

プールの床は熱いけど、あわてて飛び込むと水がすごく冷たい（4巻7〜8ページ／2015年7月頃）

「リカちゃんハウスちゃん」全巻一挙ダイジェスト
Manga 宮田篤＋笹萌恵　Text 雨貝未来　Photo 雨貝未来、佐々木創

COMMENTARY

井野小閉校、マンガは続くのか

「ちくちく校歌」にほとんどの時間とエネルギーを費やしたために、3年生のマンガの更新は滞っていたし、井野小が閉校した後「リカちゃんハウスちゃん」をどうするか、なんてとても考える余裕はなかったというのが、この年の状況であった。ただ、校歌の旗をつくりながらさまざまな人と出会い、話をする過程で、図書室での取材とおたよりのやりとりだけでは出会えなかった、団地のおばさまたちや保護者との関係ができたり、旗をつくりながら一緒に時間を過ごすことによって、子どもたちや先生方との間にも、今までにないコミュニケーションの幅と深さが生まれたりした。そのような中で、宮田と笹の中では自然と「新しい学校でマンガの連載を続ける」というイメージが固まっていったようだった。

旗をつくり閉校までの時間を過ごす

宮田と笹が「リカちゃんハウスちゃん」とほぼ同時期に取手ではじめた「ちくちく地区」は、2枚のカラフルなフェルトから文字を切り抜き、文字と土台を交換し、ぴったり重なることのないそれらを“糸”と“意図”とでくっつけて小さな旗をつくる、裁縫あそびだ。この「ちくちく地区」の方法で、330組・660枚の文字が連なる歌いことばの校歌の旗をつくり、閉校式に飾りつける「ちくちく校歌」プロジェクトは、2014年6月にはじまった。約9か月で660枚の旗を完成させるという、当初は無謀なようにも思われた取り組みであったが、児童、先生方、保護者、井野団地の人たちの力で、閉校式会場の体育館には、すべての文字の旗がところ狭しと飾られることになった。

制作には様々な人が関わった

閉校式に飾られた「ちくちく校歌」

あるおたよりから生まれた「ちくちく校歌」

13年度末には、井野小が14年度をもって閉校し、近隣の吉田小および小文間小と合併することがわかっていた。合併したら、マンガはどうしようか……。そんなことも頭をかすめつつ、宮田と笹は平常通り、月1回の図書室通学を続けていた。そんなある時、おたよりコーナーに「井野小の校歌を教えてください」というお題のおたよりを置いた。多くの児童が漢字かな混じりの「歌詞」を教えてくれる中で、当時よく図書室に来ていたSくんという男の子が、ひらがなの「歌いことば」の校歌をおたよりに書いてくれた。「♪まっちのーやーなみーにこーうしゃのまーどにー（町の家並みに校舎の窓に）」とリズミカルな調子で書かれたおたよりを見た宮田と笹に「ちくちく校歌」の構想が生まれた。

板書しながらあらすじを説明

「ひみつのじゅぎょう」の様子

「ひみつのじゅぎょう」

井野小に比べて約3倍の児童数になった取手東小での連載継続。吉田小と小文間小から来た子どもたちにマンガが受け入れられるかが、大きな心配のひとつだった。6月、学校からの提案で、リカちゃんと同じ4年生の3クラスで、マンガを知ってもらうことを目的とした授業をすることになった。授業では「これまでのあらすじ」を紹介し、何種類かの「おたより」を実際に4年生の児童に書いてもらった。本文の「わすれものスピーカー」は、この時に寄せられたおたよりが元になって生まれたハウスちゃんの「装備」のひとつだ。この授業に名前はなかったのだが、あるクラスの先生が「これから“ひみつのじゅぎょう”をします！」と紹介してくれたのがぴたりとはまり、以降「ひみつのじゅぎょう」と呼ばれた。

活動場所は統合後の取手東小学校へ

年度が変わると早速、統合後の取手東小へ、マンガ連載を継続するための相談をしに行った。行ってみると、井野小閉校時の校長・島田先生が引き続き、取手東小の初代校長としてそこにいた。2巻からずっと見守ってくれている、司書の澤野先生も一緒に異動していた。こうして驚くほどスムーズに、取手東小での活動がスタートした。

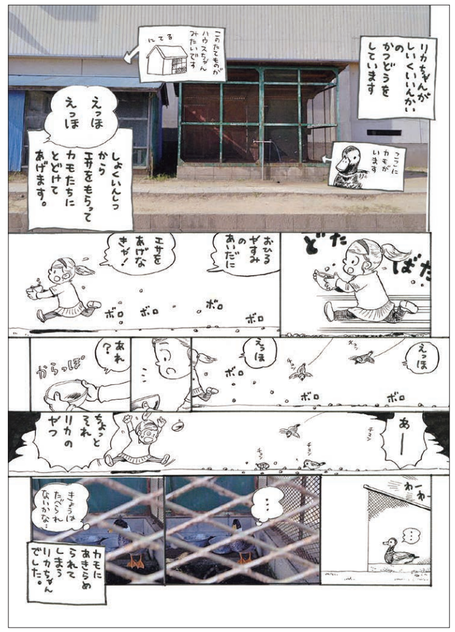
4巻は新しい図書室の窓際に

"RIKA-CHAN HOUSE-CHAN" 2017

6 ろくねんせい

RIKA-CHAN

演劇クラブに、飼育委員会に、宿泊学習もある……。5年生のリカはおおいそがし！



ポポのえさを届けに飼育小屋に走るリカちゃん（5巻5ページ／2016年12月頃）

みんなにとのクラブと委員会がいいか相談した（5巻3ページ／2016年11月頃）

"RIKA-CHAN HOUSE-CHAN" 2016

5 ごねんせい

Manga 宮田眞＋笹南恵 Text 南貝未来 Photo 南貝未来, 評力静, 田邊佳奈

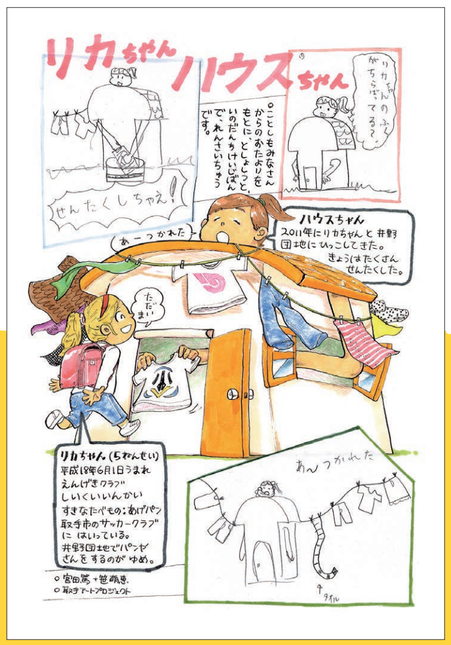
5年生になったリカちゃん。高学年になると、新しくクラブ活動もあるし、委員会活動もはじまります。「どこに入ろうかな。たくさんあるからなやむなあ……。」いろんなお友だちに聞いてみたところ「リカちゃんならこの演劇クラブかな。」「生き物が好きそうだから飼育委員会がいいんじゃない？」。うん、どちらの意見にもしっくりきたので、リカちゃんは、演劇クラブと飼育委員会に入ることに決めました。

演劇クラブでは体育館のステージに上がって、大きな声で発声練習をします。大学生のころから演劇をやっているしもだ先生が、よくひびく声の出し方を教えてくれます。演劇クラブといえば、たくさんの役があって、それぞれの衣装がありますね。リカちゃんは、いろんな時代のいろんな人になれるのがおもしろくて、ありったけの衣装をぜんぶ着てみたりしました。

飼育委員会では、毎日昼休みに職員室からエサをもらって、カモのポポに届けるのが、リカちゃんのお仕事です。「ポポおなかすいてるだろうな、早くごはんを持っていってあげなきゃ！」そう思っていつもあわてて走っていくので、飼育小屋に着くまでに、エサをぜんぶこぼしてしまうこともありました。

秋になると、5年生の大イベント、宿泊学習があります。おおぜいでひとつの場所に泊まるので、おふろの時間がとっても短くてたいへんです。ごしごし洗って、大いそぎでふいて、なんとか時間内におふろから出てきたリカちゃんでしたが、体はまだあわあわ、びしょびしょのままでした。

宿泊学習のおふろは時間がとても短い



取手東小の広報紙「はるかぜ」に登場したふたりの紹介マンガ（2016年12月頃）

COMMENTARY

先生でも友だちでもない大人

この頃から「取材」の様子が少し変わってきた。廊下や駐車場で偶然会った先生に話を聞いたり、図書室によく来る男の子たちが所属するサッカークラブの練習に足を運んだりしながら、学校と、そこにいる人たちのことが少しずつ、マンガになっていった。演劇クラブの活動も、練習から発表会までを数回にわたって取材し、マンガにした。

月1回の図書室では、マンガに関係のない話をすることも増えた。「あ、今日来てたんだ！」と寄ってくる子たちも。更新されたマンガを、隣のテーブルで静かに読む子たち。「新しいおたよりちょうだい！」と鉛筆を持ってくる子たち。先生でも友だちでもない曖昧な存在の宮田・笹と、みんなそれぞれに自由な距離感で遊んでいた。

月1回の図書室活動の様子

"RIKA-CHAN HOUSE-CHAN" 2017

6 ろくねんせい

RIKA-CHAN

わたし、（マンガだけど）取手東小学校を卒業しました。卒業証書もらったよ——!!

たいへんよくできました

卒業証書をもらって大喜びのリカちゃん（6巻19〜20ページ／2017年3月）

と うとうリカちゃんも、小学校最後の学年になりました。6年生がはじまったころから「リカちゃんは卒業したらどうするの？ 中学校にはいくのかな？」学校のお友だちや先生たち、団地の人たちから、そんな声が聞こえてくるようになりました。リカちゃんもハウスちゃんも気になっていたので、またいつものように、いろんな人に会うたびに、卒業のことや中学校のことを聞いてまわりました。このマンガ「リカちゃんハウスちゃん」をつくっている宮田さんと笹さんも、この先をどうするか、たくさんなやんでいました。

秋になると、校長のとよしま先生からある提案がありました。「6年生を送る会で、リカちゃんの卒業式をしたらどうかな？」問題は、校長先生がどうやって「マンガ」のリカちゃんに卒業証書をわたすかです。しばらく考えていると、教頭のゆはら先生が「スクリーンを使えば、校長先生がマンガの世界に入れるかもしれないね。」とひらめきました。「それはいいアイディアですね！」宮田さんと笹さんもはりきって準備にとりかかりました。

あっというまに「6年生を送る会」の日になりました。1年生から5年生の心をこめた発表と、6年生の息の合ったお礼の演奏が、じゅんばんに行われました。終わりのあいさつをしようとマイクの前に立った校長先生は「そうだ、あいさつの前にやることがあるんです。ちょっと行ってきますね。」そう言ってステージの幕の中に消えていきました。そして次の瞬間には幕がひらいて、マンガの世界に入った校長先生が、リカちゃんに卒業証書をわたしました。「リカちゃんハウスちゃん」を知っている子も知らない子も、後ろの方で見ていた保護者のみなさんも、先生たちも、リカちゃんの卒業をお祝いしてくれました。リカちゃんはとってもうれしくて、今までおたよりを書いたり、マンガを読んだり、お話を聞かせてくれた人たち全員に、お礼を言いたいくらいでした。

ひと足早いリカちゃんの卒業式

3月2日、取手東小の「6年生を送る会」が行われた。会も終盤、校長先生が「ちょっと行ってきますね」とステージに消える。会場がどよめく中、緞帳がするすると開き「リカちゃんハウスちゃん 卒業式の巻」がはじまった。校長先生のナレーションで6年間のダイジェストが流れた後は、卒業証書の授与だ。校長先生の呼びかけに答えるリカちゃんの声。リカちゃんは、緊張しながら証書を受け取った後、マンガを通して出会った一人ひとりに呼びかけ続ける。「名前呼ばれた！」と歓声をあげる子、隣の人とひそひそマンガの話をする子、じっと画面を見つめる子……という会場の反応はステージ袖の宮田と笹にはよく見えないので不安だったようだが、ともかくリカちゃんは無事、取手東小を卒業した。

何がはじまるかと画面を見つめる

紙原稿を直接スクリーンに映した

学校祭に登場「着るハウスちゃん」

卒業式で活躍した写真パネル

先生のアイディアから生まれた新展開

17年度のはじめ、取手東小には新しい校長先生と教頭先生がやってきた。サプライズ好きな校長の豊嶋先生と、アイディア豊富な教頭の湯原先生だ。先生たちからの提案を受けて、学校祭「東小フェスティバル」での等身大「着るハウスちゃん」の出展や、卒業式で「マンガの中に入って写真が撮れる」撮影ブース設置など、リカちゃんとハウスちゃんが「現実」の学校生活の中に登場する機会が増えた。宮田と笹が図書室に来る日の事前お知らせも図書室に掲出され、月1回の図書室活動も、にぎやかになった。「6年生を送る会」の最後に、校長先生がマンガの世界に行ってリカちゃんに卒業証書を渡すというアイディアも、校長室でお茶をいただきながら話をする中で生まれた発想だった。

おたより募集

あなたも「おたより」を書こう！
もれなく特製シールをプレゼント
くわしくは下記ウェブサイトから
http://toride-ap.gr.jp/tappaper4-otayori

［座談会］

往来で生まれる物語

ゆだねて転がるアートプロジェクト

宮田篤＋笹萌恵
長津結一郎

聞き手――羽原康恵（TAP実施本部事務局長）

フィクションのリカちゃん、ハウスちゃんとともに現実の小学校に通った宮田篤＋笹萌恵。社会の中にある多様な境界に対峙しそこに生まれる表現活動の研究を続ける長津結一郎氏と学校を基点として一つの生活圏を行き来し続けた7年あまりの活動を振り返ります。

ゲスト｜長津結一郎（ながつ・ゆういちろう）
1985年生まれ。東京藝術大学大学院音楽研究科音楽専攻音楽文化学分野芸術環境創造領域博士後期課程修了。異なる立場や背景をもつ人々の協働とそこにある芸術文化の役割について、研究・実践の双方からアプローチを試みている。2016年より九州大学大学院芸術工学研究院コミュニケーションデザイン科学部門助教。TAPには2005〜06にインターンとして参加。著書に『舞台の上の障害者：境界から生まれる表現』（九州大学出版会、2018年）、『ソーシャルアートラボ』（水曜社、2018年［共著］）などがある。

アーティスト｜宮田篤（みやた・あつし）
1984年生まれ。愛知県立芸術大学美術研究科美術専攻修了。主な展覧会に2010年「ふしぎの森の美術館」広島市現代美術館（広島）、2014年「美術館で夏休み―いつものミチのひみつキチ」刈谷市美術館（愛知）、2017年「ポコラート 全国公募vol.6受賞者展」3331ArtsChiyoda（東京）など。2019年「『びぶんブックス』ことばの店：微分帖」トーキョーアーツアンドスペース（東京）を準備中。取手アートプロジェクト2006・2008公募選出作家。2010年よりパートナーアーティストとして参加している。

アーティスト｜笹萌恵（ささ・もえ）
1986年生まれ。東京藝術大学音楽学部音楽環境創造科卒業。2009年より"宮田篤＋笹萌恵"として活動を開始し、裁縫あそび「ちくちく地区」をはじめる。主な展覧会に2015年「あざみ野こどもぎゃらりぃ」横浜市民ギャラリーあざみ野（神奈川）、2016年「音をかたちに、かたちを音に」安曇野市穂高交流学習センター［みらい］（長野）など。取手アートプロジェクトには、2006年にサポートスタッフとして参加。2010年よりパートナーアーティストとして参加している。

「よくわからない大人」が学校に

長津結一郎（以下、長津）　この活動の仕組みは、学校に外の人が関わるこれまでの方法の、どれにもあてはまらないような気がしました。授業するわけじゃないし、部活の面倒を見にくるわけでもない。「アウトリーチ」とも少し違うように見えますよね。

笹萌恵（以下、笹）　学校の中で「リカちゃんハウスちゃん」のマンガがどれだけ周知されても、我々が小学生にとって「よくわからない大人」なのはずっと変わらなかったんじゃないかと思います。その異物感をおもしろがる子はやっぱりいたなと。

宮田篤（以下、宮田）　図書室にいる時、無理やりつかまえてきて「マンガ読もうよ。」とかはしないかな。隅の方のテーブルで作業していたら、興味のある子は呼ばなくても寄ってくるし、中距離くらいでこっちを見ている子がいれば話しかけてみる。実は、笹も僕も自分が前線に立って人と会話するのはやや苦手なんですよね。だからこそ、ちょっとした居づらさとかには割と敏感なところがあって。だけど、ひとつのマンガにみんなのアイディアや、雰囲気や、話したことを持ち込もうとしているときは、居づらさがいったん解除される気がする。誰かが言ったことが他の人とずれていても、ずれた方が楽しめる場が生まれるんですよね。「リカちゃんハウスちゃん」でも、マンガとかおたよりがあることで、子どもたちとのんびりできるというか。

長津　フレームとしてもちょっとずれていますよね。学校の中だけど「教育」としてはやっていない。「教育」をどう定義するかっていうのもあるけど、どう考えても本来の学校教育じゃなさそうなものが学校にあり続けるっていうのは、あんまり起こってないことではあるだろうなと。目的外使用というか。

乗り降り自由であること

長津　月1回図書室にいて、その時その場所にいた子どもからぽっと出た反射的なアイディアで、一期一会的にストーリーができるけれど、その先の関係は約束されない。それって、むなしいと思うことはないですか。

笹　子どもって基本はその一瞬の興味ですよね。大人だと、一度参加したら乗りかかった船というか、降りられなくなったり、船を漕ぎたくなったり、あると思うんですけど。子どもは一度乗っても平気で降りていくし、そのまま気にしないこともあるし。かと思えばまた急に乗ってきたり。乗り降り自由だなって思う。

長津　そう聞くと、一見、しんどそうなプロジェクトだなあって思ってしまう(笑)。つねに大人の側が、乗り降り自由を保証しなきゃならないじゃないですか。でも、このプロジェクトはしんどい感じがしない……不思議ですね。

宮田　お互いに無責任だからこそのよさもあるのかな。マンガにするから教えてくださいじゃなく、ちょっと今ここでお話が止まっているんだけど、どう思う？くらいの感じで、こちらも約束しない。

ゆだねることと、価値判断について

笹　それでも、結局どうするのかっていうのはずっと他の人にゆだねてきたよね。

宮田　ゆだねる人は、団地の人たちからはじまって、小学校に行ったら児童や先生、保護者とかきょうだいが加わって、学校が統合したら相手が増えて。

長津　でも、決めない、ゆだねるっていいながらも、結局は連続性のあるマンガになるわけですよね。しかも、採用されるエピソードとかおたよりの質感が、ある程度一定に保たれている。そこに関して、宮田さんと笹さんは、したたかに価値判断をしてるとも思えるんですが。

宮田　おたよりのエピソードが単体でおもしろいかどうかというよりは、「背景が団地や学校で、フィクションの彼女たちがいる」というそもそもある設定にはまるかどうか、っていうのがあって。おもしろいんだけど、こう、ちょっと角ばってるのは、選べなかったのかな。なじんでいかないものは自然と選ばない、それは価値判断といえばそうなんですけど。

――エピソードを「創造」しようとしているおたよりは割と除外されている感じもしました。物語をつくっているのに、書き手が「創造」しようとする思いを否定はしないけど、極力避けているというのは、逆説的ですよね。

宮田　「定食つくったんでどうぞ」みたいのよりは「ちょっとどんぐり拾ってきたんで」みたいな方が扱いやすいとか、そういうのはあるかもしれないですね。

長津　人がせっかく考えておもしろいアイディア持ってきてるのに。

宮田　うーん(笑)なんか、ひどいよねえ。

――近年の地域型アートプロジェクトはともすれば、いろんな人の創造性が発露して生まれる突発的なエネルギーを「わ、おもしろいですねー！」って盛り上げていくようなところもあるけど、そういうものの真逆をいくというか。

長津　採用されなかったアイディアって、供養されないんですか。

宮田　されないですねえ。でも、考えて発露したらもうそれでいいじゃん、っていう気もちょっとするのはしますね。

一緒に遊び、転がっていく

宮田　僕らの他のワークショップはどちらかというと、方程式なんですよね。X＋Y＝「微分帖（※1）」とか。ルールに則ってやっていくと、その場に居合わせた人たちと自分とのイメージの重なり合いが共有できて楽しめる。でもこのマンガはXとYがあるだけ。よくわからないXとYがいて、ふたりはただならぬ関係みたいです、舞台は井野団地です、さあどうしよう、みたいな。どっちも好きなんですけど。

長津　参加のしてもらい方がだいぶ違いますよね。「ちくちく地区（※2）」や「微分帖」は、方程式作りました、はい参加してくださいっていう線引きがすごく見えやすいつくりだと思うんです。一方でこちらは、その線を引いた後で、線を引く側だった自分たちも、そのフォーマットの上で一緒にどう遊ぶかみたいなプロセスがあるように思いました。

――2010年の「アートのある団地」立ち上げの時、TAP2006の野村誠チーム（※3）を再び招いた企画会議の中で、不特定多数に向けてではなく、ひとり対ひとりの関係があるプロジェクトしかやらないという方針が定まったんです。それに応えたプランのひとつが「リカちゃんハウスちゃん」でした。

宮田　井野団地の中にフィクションのふたりをぽんと置いて、あとはリアクションを受けながら決めていこうみたいなことからはじまったんですよね。最初の頃は団地の中を歩いて、散歩中の人とか電気工事の人とか、会った人にやりかけのマンガを見せながら話をして、そこから一話描いて。ずっと一話完結みたいなまかなと思っていたら、小学校に入学したあたりから時が流れ出す感じがあって。ふたりがただ団地にいるだけじゃなくて、生活している感じというか。

笹　1年生の終わりに、2年生になるのか、のび太くんみたいに同じ歳でループするのかという話もあったけど、自然と「進級するんじゃない？」みたいな雰囲気があって、そのルートに乗っちゃった。

長津　そのルートに乗ったがために、6年間も小学校に通い続けることになったと。最終回をいつのタイミングにするかは、当初から考えていたんですか？

笹　最終回っていうことばが初めて出てきたのは、たぶん卒業するタイミングだったと思います。

宮田　それまではあまり考えてなくて。でももう、終わらせなくても続く感じがしていて。

長津　終わらせなくても続く、とは？

笹　マンガを読んできた人たちの中に、リカちゃんは今は中学生になって暮らしているよねという感じが、なんとなく生まれてきているというか。だからマンガの中で中学生にならなくても、もうそれぞれの人の中で勝手に生きていくかもっていう気配はある。

宮田　それってやめどきのイメージでもあるというか。今やめるとしたら、そういうイメージをもってやめるのかなあっていう気がしますね。

長津　フィクションとしてはじまったものが、いろいろな人と関わりながら続いてきたことで、終わったあとも当たり前にそれぞれのなかに残っていく、もうひとつの「歴史」になったんですね。

おたよりから生まれた、雪のエピソード

実際に子どもたちに書いてもらっていた「おたより」用紙

1｜微分帖（2008年〜）
宮田の「ことば」と「イメージの重なりあい」を主題とした活動の基礎でもあるワークショップ。数人が集まり、ひとり目が、1枚の紙を二つ折りにしてできる4ページにひとつながりの文章を書く。次の人が二つ折りの紙をもう1枚挟み、前後の内容につながるようにその間のお話を考える。誰かが「おしまい」と決めるまでこれを繰り返すと、思いもよらないお話が生まれる。

2｜ちくちく地区（2010年〜）
宮田篤＋笹萌恵が「リカちゃんハウスちゃん」と時期を同じくして取手ではじめたワークショップ。ボランティアスタッフの名前のひと文字を名札にする「ちくちくなふだ」（2011年〜）や、団地の様々な場所にこっそり飾りつけられた旗を探す「てくてく地区」（2012年）などが行われ、2013年には「ちくちく校歌」に派生した（詳細は本紙4ページコラム参照）。

3｜野村誠チーム
TAP2006の公募選出作家として宮田が参加した「あーだ・こーだ・けーだ（ACD）」は、ゲスト・プロデューサー野村誠の「かたちにしなくていい。かたちにすると、関われる隙間がどんどんなくなるんですよ。」という言葉から、17組26名もの選出者がゴールを決めずに共同生活をしながら制作を進めるという実験的なものだった。当時笹はサポートスタッフとして、長津はTAPチーフインターンとしてこの活動に携わった。

座談会収録＝2018年5月12日 於 取手井野団地

［座談会］往来で生まれる物語
Edit 南貝未来、羽原康恵　Photo 許力静（人物写真）、南貝未来、小林えつ

食に自覚的になるきっかけとして、
つくれるものは極力手づくり。
日替りランチ（一般）：740円
自家焙煎コーヒー：150円〜
毎朝焼きたてパン：150円〜

HAN-NÔ HAN-GEI

取手アートプロジェクト

半農半芸

藝大食堂

TORIDE OMONMA

GEIDAI SHOKUDō

つくること、生きることを支える新プロジェクト拠点「藝大食堂」始動！

「藝大食堂」は東京藝術大学取手校地の森の中にある。若い芸術家たちが通うキャンパスには豊かな里山環境が広がり、運が良ければ食堂の窓外に野うさぎや雉などを見かける。学生や教職員の活動を支える「藝大食堂」は現在、地域の方をはじめ多様な人びとが行き交う場として開かれはじめている。

この拠点は、東日本大震災直後よりはじまったTAPのコアプログラム《半農半芸》の活動理念を軸とする。表現者たちが体を動かして大地や風土と向き合い、地域の方々との協働を通じて人・地域・労働の未来をつくろうとするプロジェクトだ。この活動をベースに、昨年10月東京藝術大学取手校地福利厚生施設が「藝大食堂」に生まれ変わった。食堂として経営しながら、アーティストやデザイナー・建築家・染織家・舞踏家・研究者・農業従事者など多様な表現者や専門家らが集う新しいアートの発信拠点として、種々のプロジェクトが走りはじめている。

施設内に新設された藝大食堂ギャラリーでは、学生の審査展のほか取手校地にある専門工房群「藝大ファクトリーラボ」や各研究室との連携企画、第一線で活躍する芸術家の展覧会などを開催する。使われなくなった食品サンプルケースは小沢剛（東京藝術大学先端芸術表現科教授）と藝大食堂の共同企画として回遊型ギャラリー「ショーケース」として生まれ変わった。毎年12月に実施される「取手アートパス」では食をテーマとした体験型パフォーマンスを実施するなど、施設特性を生かした新たな活動が展開する。

統括ディレクターである岩間賢（美術家）は「人と土は一体で、この地球は人類が営める唯一の場所。それを改めて見つめ直し、地球規模の視野と、草の根の、地域に足をつけた視点の両眼をもって「つくること」や「生きること」を考えていく」と語る。将来的には、文字通り土地を「耕す」ことも構想するこのプロジェクトは、まだ緒についたばかりだ。

岡博美と協力者らの手作業で一新されたスペース

風景と食設計室ホー「世界と私の手のひら食堂」

藝大ファクトリーラボ所属の作家による展示

ショーケース #5
塩出麻美「透明な匣」

GEIDAI SHOKUDō

施設開館時間 10:00–19:00
ランチ11:30–14:00／カフェ・売店10:00–18:00
土日祝・大学の休校日（後期営業は2018年10月から）
茨城県取手市小文間5000
東京藝術大学取手校地福利厚生施設内
050-5248-5571（月〜金10:00–18:00）
info@geidaishokudo.com
geidaishokudo.com

藝大食堂｜プロジェクトメンバー
統括ディレクター＝岩間賢
ディレクター＝小野寺美穂　マネージャー＝竹村麗良
スタッフ＝串田代志子、小路口尚美、長谷川由香

藝大食堂ウェブサイトはコチラ

次号「あしたの郊外 第5号」では半農半芸＆藝大食堂特集を予定！

取手アートプロジェクトペーパー『あしたの郊外』第4号　本紙をご覧になってのご意見・ご感想などをぜひお聞かせください
発行日＝2018年10月1日　主催・発行＝取手アートプロジェクト実行委員会、茨城県南芸術の門創造会議、NPO法人取手アートプロジェクトオフィス
協賛＝株式会社安井建築設計事務所、取手ロータリークラブ、吉原潤一　協力＝茨城みなみ農業協同組合、株式会社Open A、関東鉄道株式会社、取手井野団地自治会、取手市立取手東小学校・旧取手市立井野小学校のみなさん、ひだまりのまちプロジェクト、UR都市機構
法務アドバイス＝馬場貞幸（法律事務所エイチーム）　執筆・取材・編集＝雨貝未来、羽原康恵　監修＝熊倉純子　デザイン＝森垣賢
お問い合わせ＝取手アートプロジェクト実施本部　〒300-1522 茨城県取手市高須2156 TAKASU HOUSE
TEL：0297-84-1874（火・金13:00-17:00）　E-mail：tap-info@toride-ap.gr.jp　WEB：https://toride-ap.gr.jp　@toride_ap　toride.ap

年間購読のご案内
年間購読料：年2回発行500円／年（送料・手数料）。本紙を無償で設置いただける施設・店舗も募集しています。

本紙記者を募集中
プロジェクトに市民記者（無償・取材時交通費支給）として参加しませんか。興味のある方ならどなたでも。

購読申込・記者申込は、tap-info@toride-ap.gr.jpまで

取手アート不動産 toridеartestate.jp
物件、人、アイデアまで暮らしの「おもしろい」が続々登場！

あしたの郊外WEB ashitanokougai.com
「あしたの郊外」を探る対談・コラム、WEBにて全編公開中！

助成＝平成30年度
文化庁　文化芸術
創造拠点形成事業

Text 岩間賢、羽原康恵　Photo 小野寺美穂、寺田健太郎、羽原康恵

あの人、この人にインタビュー！

取手のひと

【台北育ち、取手市在住】
許中一（きょ ちゅういち）さん

No.4

いろんなこと、なんとなく「命運」だね。

最初は留学で台湾から日本に来ました。こどもの頃からアニメとかドラマとか、たくさん日本の文化に触れる機会があって、それで日本が好きで。私の青春時代は酒井法子と中山美穂。都内の大学の地理学科を卒業して電気店に就職して、国際交流の会に参加したときに妻と知り合いました。

台北生まれだから取手に住むまでずっと都市暮らし。取手の環境は、空間が都内より広いし、人がそんなに多くない。こういうゆとりにすごく憧れてて。道の幅、車の数、世界が変わったよね。妻の家の周りは田んぼや畑があって、5月頃になるとカエルの声、9月になるとコオロギの声。すごく感動したんですよ。取手で生まれた娘もすごくここを気に入ってる。でもだんだん取手も変わってきたよね。畑減って、家が増えて。

「いこいーの（※1）」に来るのは娘のため。内緒の話なんだけど、妻も私もそんなにイベント興味津々じゃないんですよね。あんまり興味ないけど、「とくいの銀行（※2）」で「野鳥観察」を引き出しました。多分娘が好きだから。参加したあと娘は鳥が好きになって、我孫子の鳥の博物館に何度も通ってた。私は1回だけ「言葉の交換」を引き出されて、話したり一緒に本読んだりしました。去年の9月頃から半年間、毎週1回くらい。私もちょっと日本語の練習になるから、大変ではなかった。

日本語は9歳の娘より下手。上手になりたいけど、努力してません。いっぱいやることあるから。私は何でも一生懸命一筋にやるタイプじゃなくて、いろんなことちょっとずつたくさんやりたい。土日は家族3人で出かけるから、平日の午前中が自由時間。最近運動に目覚めてウエルネスプラザに週1回行って、あとは川辺で市民農園やったり、台湾語のユーチューブ見たり。

私は日本留学っていう青春時代の夢を叶えて、そのとき次の夢つくらなかったから。とりあえず家族みんな幸せで健康で、生きればそれはいいんじゃない。いろんなこと、なんとなく「命運」だね。取手は死ぬまで住むかな、家も建てたから。またお茶飲みに来てね。

←許さん自身は仕事で行けなかった、とくいの銀行「小文間の野鳥を紹介します」ひきだしの様子。

※1.「いこいーの＋Tappino」井野団地にあるコミュニティカフェ兼アート拠点　※2. 深澤孝史による人のとくい（得意・特異）が集まる銀行。同拠点に本店がある

TORIDE CITY　SINCE 2018

#4
取手のしごと
WORK IN TORIDE
やさいINO
古谷彌治さん

YASUJI FURUYA　INTERVIEW

1. ぬか漬けは祖母の代からのぬか床で漬ける　2. 古谷家代々続く田んぼ　3. 旬の作物が並ぶ店内、常連さんとの会話もはずむ

今年2月、「いこいーの」の隣の空き店舗に久しぶりに入ったテナント「やさいINO」。「いこいーの」ときょうだいみたいな名前のこのお店は、井野団地の近くに住む農家の古谷さんがやっている。開店と同時にお店に行くと、畑から運んだばかりの野菜がずらり、お客さんを待っていた。

「店を構える前は露店販売で。団地をつくる時に、今の1街区あたりにあった田んぼを引き渡して、かわりに近くで販売してもいいですか、ってことで昭和44年に祖母がはじめました。当時まだ農家の人は、かごを背負って常磐線に乗って売りに行っていた時代。祖母の後おふくろが継いで、私も4〜5年やったんですけど。自分で作った野菜は自分で売るという同じスタイルで、私もやってみようかなと思って。」

お話を聞いている間も、一人またひとりお客さんが入ってきて、品物を眺めたり、おしゃべりしたり。団地でお店をやるって、どんな感じなんでしょう。

「家は団地の近くの農家の集落で、小さい頃はこのお店の前の広場が遊び場でした。約束もしないで、来れば誰かいるだろう、みたいな。店にはおふくろの時代のお客さんも来てくれるし、同級生のお母さんとか今でも住んでいて、会うとやっちゃんって声かけられたり。「いこいーの」のお客さんも来ますよ、露店の時からの方もいるし。」

古谷さんは農業を継ぐ前、20年ほど会社員をしていたそう。ほぼゼロから野菜づくりをして7年、最近では美味安全野菜栽培士という資格も取るまでに。

「農地売ってしまうのは簡単ですけどね。会社員続けて、土地は売って、そのお金で有意義に過ごせば、私たちはそれで幸せかもしれないけど。先代からの農地を子どもたちに引き継ぐのが、私の責任かなと思ってね。脱サラして農業はじめた時は、小松菜とほうれん草の違いもわかんなかったです。葉っぱどこが違うんだろう、って観察からはじまって。」

「プレッシャーはありますよね。店を構えた限りは成功させないと。今はね、必死でいろんなとこに営業に行って、飲食店にお米使ってもらえませんかとか、協力者を探しながら。でも楽しいですよねやっぱり。人と関わる仕事だから。なんとかこれから成長していこうかなと思ってね。」

自分を育ててくれた田畑で、自分で米や野菜を育て、自分が育った場所で売る。そこに流れる長い時間のことを考えていたら、「こんにちはー」またひとりお客さんが入ってきた。

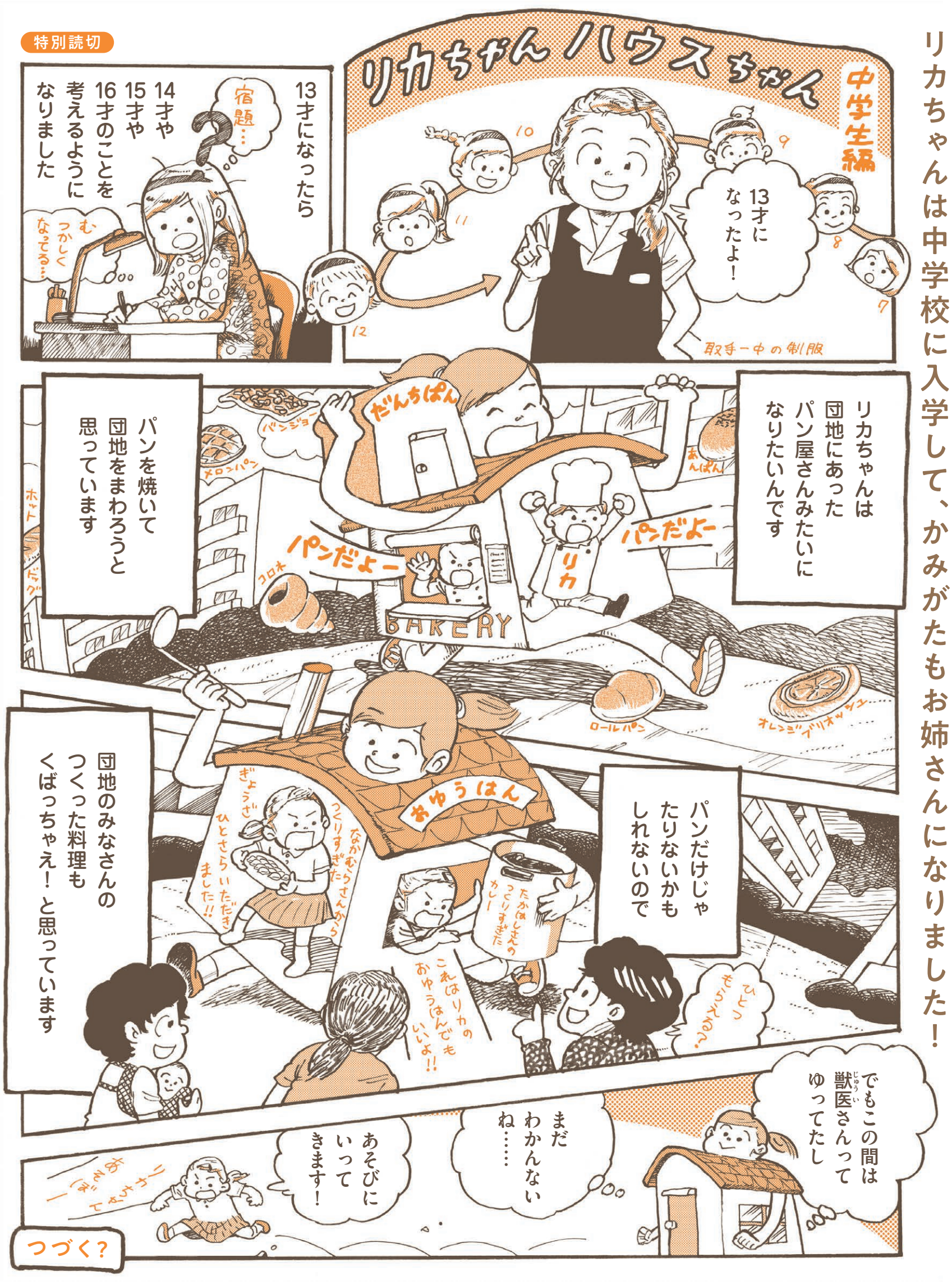
SHOP DATA

農家のお店｜農産物直売所
やさいINO（やさいいの）
10:00–18:00　土日祝
茨城県取手市井野団地3-19-105
［Twitter］@HcaJXWbaLvKXF0J

Edit 羽原康恵、雨貝未来　Photo 雨貝未来、羽原康恵、古谷彌治

リカちゃんは中学校に入学して、かみがたもお姉さんになりました！

パン屋さんになるために、まずはパンをたくさん食べています。



宮田篤＋笹萌恵先生に「おたより」を書こう。もれなく特製シールをプレゼント！

阿久比町庁舎

安井建築設計事務所
代表取締役社長　佐野 吉彦
www.yasui-archi.co.jp

取手市内にアパートを所有したのがきっかけで
このまちとTAPにご縁ができました。
取手のまちの“あそびごころ”の仕掛け人
取手アートプロジェクトを応援しています。

PETIT COLLINE EST TORIDE

プチコリーヌエスト取手｜オーナー
吉原 潤一 Junichi Yoshihara
プチコリーヌエスト取手